

令和6年度 豊橋市特別職報酬等審議会（第1回）会議録

日 時 令和6年11月26日（火）午前9時30分

会 場 東41会議室（東館4階）

委員定数 7人

出席委員 5人（岩崎 正弥会長、天野 明彦委員、山本 貴士委員、鈴木 真理子委員、岡本 睦子委員）

人事課長 ただいまから今年度の特別職報酬等委員会を開催させていただきます。以降、会の進行については岩崎会長よろしくお願ひします。

会長 それでは次第に基づきまして、まずは資料説明について事務局からお願いいたします。

人事課長補佐 資料1～資料5の説明

庶務課長 資料6説明

財政課長 資料7説明

会長 はい、どうもありがとうございました。事務局から資料1から7すべての資料のご説明を頂きました。それでは、まずは資料に関する質問から行いたいと思います。どこからでも構いませんのでご質問があれば、よろしくお願ひいたします。

委員 この会議についてですけれども、資料1の1ページに各年度諮問なしとか、そういうような項目がありますが、こういう諮問なし建議なしの時には、この特別職の会議が諮問建議なしにもかかわらずこの会は開催されるのかどうかという、その辺がちょっとわかりませんので教えていただけたらと思います。

- 人事課長 過去には年に何回か開催したような件もございましたけれども、やはり年に1度諮問建議有無にかかわらず、委員の皆様へご説明等を行い、現状を知っていただいたうえで特別職の報酬について議論していただくという機会はとても重要だと考えております。そういったこともあり、諮問建議の有無にかかわらず開催させていただいております。
- 会長 ここ数年はずっと諮問無し・建議無しなんですよね。他はいかがでしょうか。
- 委員 単純なことですがよろしいでしょうか。資料7、7ページにおいて財政調整基金が増えてはいるものの中身はあまり楽ではないということを仰っていましたが、基金額が増えているものの楽ではないということはどういった意味なのでしょう。
- 財政課長 これは3年ごとに拾っている数字ですが、今年度当初予算にて35億円の取り崩し予定を立てております。さらに今年度の扶助費等予算が不足していることから、今年度中にさらに追加の取り崩しを予定しております。それを考えますと、平成29年度や令和2年度よりも数字が低くなると見込まれることから先のように申し上げたところです。
- 委員 そういうことですね。そうすると、令和8年度末は基金額がかなり下がるということですね。
- 財政課長 令和6年度末においては、そういった見込みであるということです。
- 委員 取り崩し35億予定に加えさらに取り崩すということでしたが、取り崩すということはかなり切迫的理由があるということ

でしょうか。取り崩すというのは補正予算を組むということですよ。

財政課長

扶助費については今年度当初予算が不足することがすでに分かっておりまして、補正予算で増額をするのですが、その財源として財政調整基金を取り崩すということです。

委員

不足するのが分かっていたら少しずつ取り崩さず、一気に取り崩してしまえばよいのにと感じてしまいましたがいかがでしょうか。

財政課長

当初予算においても扶助費の見込みは立てるのですが、なかなか見込みづらい部分があります。

委員

はい、分かりました。

会長

財政の部分はなかなか分かりづらいですよ。良い機会かと思えますので、確認していただければと思います。

委員

昨年も議論になりましたけれど、やはり市長、それから議長、非常に役職も多く、勤務日数も非常に多いという状況が継続しているのかなと思っています。去年は確かデジタル化とも絡めて、働き方改革ができないのかというようなことを話したように記憶しているのですが、そのあたり、1年経った現在どんな状況なのか、お分かりになることがあれば教えていただければと思います。

総務部長

当然行政全般デジタル化の推進は行っていますけれど、市長、副市長に関しては先ほど見ていただいたように、外部の仕事が多くございます。外部の仕事については土日に出て行かな

いといけない仕事も多々あります。地元の総会等、なかなかデジタル化では対応ではできないものもあって、市長・副市長に関して正直言いますと、デジタル化の働き方改革は全く進んでいない状況ではございます。ただ、内部の会議なんかですね、Zoomの会議を活用したりして、執務室でできるようなものなどはだいぶ増えてきています。ただ、実際には勤務日数はなかなか減ることはないというのが現状です。

委員

例えば、副市長への振り分けとか、議長であれば副議長とかなり差がありますよね。そんなようなことも、昨年話に出たかなと思いますけど、このあたりについても進んでないということでしょうか。

総務部長

市長部局ですと副市長が2人おり、それぞれ担当する部局を担っています。内部的な業務に関しては、副市長に振り分けていると思いますけれども、例えば外に出る、市を代表していくとなると市長に集中するのはある意味やむを得ない、非常に難しい話ではあるのですが、進んではいると思います。正副議長に関してはどうですか。

庶務課長

正副議長の方ですね、やはり議長にぜひというような案件が多いものですから、議長の方に偏りはどうしても出てしまうのですが、副議長の方に来る案件は副議長にやっていただいて、あと議長の公務が重なってどうしても出られないとなったりした場合には、副議長が対応するとかということではございます。

会長

なかなか難しいですね。では資料に関して他に何かご質問ございますか。

会長 それではですね、今年度は特に市長からの諮問はございませんでした。事務局からの報告を受けて、市議会議員の報酬、それから市長及び副市長の給料額について、何かご意見のある方おられましたらよろしくをお願いします。

委員 今年度は諮問無しということですが、連合としても、もう12、3年ベースアップを各組合の方は行っています。特別職、議員の方もここ10年ぐらい上がっていないってことですね。そのあたり、金額はどのくらいというのはあると思うのですが、やはり物価高騰等もありますので、上げていただいた方がいいのかなと感じております。

総務部長 山本委員がおっしゃったとおり市長・副市長は平成16年から、議長・副議長、議員についても平成27年から上がっていないという状態でございます。近年の物価上昇もあって、一般職の給料は上がってきているんですね。愛知県などもつい先日、特別職の給与を改定していくという報道がありました。全国の流れもだんだんそうなっておりますので、1年かけて近隣の状況等を勉強させてもらってですね、来年度のこのタイミングでは、少し議題に上げさせていただきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいところです。

会長 検討するということですね。委員のみなさま、そういったことでよろしいでしょうか。

委員 よいと思います。地方の方では報酬の関係で議員の質の低下とか、豊橋の場合はそんなこともないのでしょうか、山村とかなかなか議員のなり手がなくなっている話も聞きます。や

っぱそういうことってちょっとずつ、全国的に波及してくるのかなあということも思いますし、やはり豊橋は何かにつけて真ん中にあることが心地良いみたいな、そういう風潮がどうしてもあるのですが、しばらく増額もしていないところですので、上げていただいた方がいいのかなと思っております。

会長 はい。ありがとうございます。他は何かご意見ございますか。

会長 それでは、増額については含みながら検討するというところで、今年度に関しては、議長、副議長、議員報酬及び市長、副市長の給料の額についてはとりあえず現行額に据えおきという、そういうことでございましたけれども、それでよろしいでしょうか。

委員一同 はい。

会長 それではこれもちまして、本日の審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。(終了)